

交通政策審議会航空分科会技術・安全部会

第3回技術規制検討小委員会 議事概要

日時：平成29年6月19日（月）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎3号館 10階 共用会議室

議事概要：

<議事（1）「今回の技術規制の見直しと経緯について」>

特になし

<議事（2）「各ワーキンググループでの検討結果について」>

特になし

<議事（3）「重点項目について」>

○技術規制見直しの背景として、航空産業の多様化に LCC だけでなく「ビジネスジェット」についても取り入れていただきたい。

また、国産機開発についても MRJ を後押しするための文言を入れていただきたい。

→報告書に取り入れる方向で、調整させていただく。

○技術の進歩に伴う環境整備が追いついていないように思われるので、技術規制の見直しの背景に「技術の進歩」についても取り入れていただきたい。

また、航空重要の増大に伴う CIQ 体制や保安検査体制の整備も重要であるため、その旨も取り入れていただきたい。

→報告書に取り入れる方向で、調整させていただく。

なお、航空需要の増大に伴う混雑を緩和するため、保安検査機器の導入を進めているところである。

○欧米との連携という観点から「BASA」についても取り入れていただきたい。

→BASA は本体協定のもとにシミュレーターの認定等の4つの分野が存在しているが、実際には当局間で分野毎にIP（実施取決め）を結ぶ必要があり、シミュレーターの認定についてはFAAとIPを結ぶことができないか相談をしたが、シミュレーターの数が限られているので個々に対応していくことが適当と回答があった。

○ビジネスジェットについても、燃料搭載基準の見直しや運航管理者の要件の見直しできちんと対応しているので、その旨も取り入れるべきではないか。

→報告書に取り入れる方向で、調整させていただく。

○機長認定制度について、個人を審査するのではなく、機長認定を実施する組織（会社）を審査し、欧米の制度同様、国が直接審査しなくてもよい体制構築を検討すべきではないか。

→日本でも、指定本邦航空運送事業者の場合には社内で機長認定を行うことが可能であるが、その指定をとれていない事業者もあるため、その要因についても検討していきたい。

○環境への配慮についても取り入れていただきたい。

→報告書に取り入れる方向で、調整させていただく。

○操縦士の訓練・審査の一部見直しは、「効率的な運航や空港運用に寄与する規制の見直し」ではなく、「人材確保に寄与する規制見直し」に入れるべきではないか。

→検討させていただく。

◆ 義務報告制度

○パイロットとしては情報の共有が重要であるため、その手法も報告書では記

載していただきたい。

○義務報告制度は、処罰を目的とするのではなく、安全を高めるためであるのでその位置づけを明確にしていきたい。

◆ RNAV 航行許可の廃止

(要望者) ○対応の分類が C となっているため、対応の方向性にある「情報収集」がきちんとなされるか懸念しており、検討の場を設置するべきではないか。

○地上施設も減ってきているので、RNAV 航行は重要であり、諸外国との相違部分もあるので、きちんと情報収集をした上で検討していきたい。

→訓練要件が不透明なところもあるので情報収集を行っていきたいと考えている。

○対応の分類については、B3 と C を併記するのでもよいのではないか。

→国際標準も存在しないので、B3 となっている他の要望とは性質が異なるものと考えている。

◆ 予備品証明制度の見直し

○他の予備品証明に関する要望も含めて、まとめて重点項目として取り扱うのもいいのではないか。

◆ 耐空証明の更新

(要望者) ○C 類や N 類でも、最近は信頼性が向上してきている。

○将来的な小型機の需要を見越した耐空証明制度を検討いただきたい。

○対応の分類については、B3 と C を併記するのでもよいのではないか。

◆ 自衛隊操縦士の資格取得措置

(要望者)○防衛省からテストパイロットとして来てもらっているが、任用に 10 ヶ月要しており、そのうち 4.5 ヶ月は計器飛行証明の取得に時間がかかっている。短縮シラバスが普及していない。

◆ 運航乗組員の航空身体検査基準

特になし

<議事(3)「技術的な内容が主ではない要望について」>

○成田空港で保安要員が大量離職という報道もあるが、保安検査体制はきちんと機能しているのか。また、CIQ については関係省庁で情報共有をしていくとあるが、航空局のスタンスを明記していただきたい。

<議事(4)「その他」>

○全要望のうち、B3 が 25%、C が 25%となっているが、全体で 60%は対応済み又今年度までに対応するようにして欲しい。

○WG だけで議論するのは時間的に難しいので、継続的に議論をしていただきたい。